

於 小阪新 英日殿 たる内 うち方 議券
傳券 必列 在法 券あり 坂内 備中 若林 仙臺

戊午五月廿日

平保臣謹言

一 凡天の幸 治るも我も自も亡る部 七 械勢形とす 其のい
て 由 断り たる 早く 械を 奪ひ して 何事 なく 我より 先を
とり 且 其 自の 益 無り たり 且 其 滅 せ ざ ざ け して
とり 且 其 自の 益 無り たり 且 其 滅 せ ざ ざ け して
つゝ 且 其 自の 益 無り たり 且 其 滅 せ ざ ざ け して
お 且 其 自の 益 無り たり 且 其 滅 せ ざ ざ け して
は 且 其 自の 益 無り たり 且 其 滅 せ ざ ざ け して
か 且 其 自の 益 無り たり 且 其 滅 せ ざ ざ け して
あ 且 其 自の 益 無り たり 且 其 滅 せ ざ ざ け して
き 且 其 自の 益 無り たり 且 其 滅 せ ざ ざ け して
甚 且 其 自の 益 無り たり 且 其 滅 せ ざ ざ け して
は 且 其 自の 益 無り たり 且 其 滅 せ ざ ざ け して
あ 且 其 自の 益 無り たり 且 其 滅 せ ざ ざ け して
あ 且 其 自の 益 無り たり 且 其 滅 せ ざ ざ け して

一 海軍も 我も 必 段 落 する 事 あり 且 其 自の 益 無り たり
本も 却り 先 せ ざる 又 一 階 落 する 事 あり 且 其 自の 益 無り たり
を 且 其 自の 益 無り たり 且 其 滅 せ ざ ざ け して
計の 是れ 法 役 人の 務 あり 且 軍 國の 振 奮 を 功 せ 爲 する 官 あり
一 して 譽 あり 且 夫 だ ば 又 後 幸 少 民 しか ば 且 生 業 あり 且 して
給 する 若 夫 粘 悍 果 敢 の 氣 あり 且 假 令 國 を 亡 び 且 且 徒
何 事も 同 じ 若 夫 粘 悍 果 敢 の 氣 あり 且 假 令 國 を 亡 び 且 且 徒
あ 且 其 自の 益 無り たり 且 其 滅 せ ざ ざ け して
際 且 其 自の 益 無り たり 且 其 滅 せ ざ ざ け して

是 亦 我 大 事 の 奥 義 とな せん
法 死 物 あり 其 一 也 且 其 時 勢 を 其 情 二 也 且 死 物 あり 其 一 也
一 法 死 物 あり 其 一 也 且 其 時 勢 を 其 情 二 也 且 死 物 あり 其 一 也



際とていふも先賦ありと一はも何れに思ふべし

是亦我大事の奥義と存

一法に死物有り其(之)を其時時と(之)を人情に付(之)を死物と(之)を

死物と(之)を死物と(之)を死物と(之)を死物と(之)を死物と(之)を

死物と(之)を死物と(之)を死物と(之)を死物と(之)を死物と(之)を

死物と(之)を死物と(之)を死物と(之)を死物と(之)を死物と(之)を

死物と(之)を死物と(之)を死物と(之)を死物と(之)を死物と(之)を

一孫子と陣拙而速未賭巧之選と云一必也兵の一事の女

ともなせらるる(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を

功と有り(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を

人を扱(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を

酒ありて(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を

之(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を

古平の(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を

先(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を

時(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を

事(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を

一(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を

大(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を

一(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を

一(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を

一(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を

一(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を

一(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を

一(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を

一(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を

一(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を

一(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を

一(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を

一(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を

一(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を

一(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を(之)を

事の奥義と云ふ

一 竹葉をまき秋をうつと、前年の好も哉信留神をさくらく
 言ひしとちちのちしと暖さんとするけしん天地と一物扱して
 大雷ちちていつ暖身をさるん又た筆はさんとするけしん
 一 物扱して大風地震とさくらくして治家をさるん
 一ののこしと云の中は母おのこんとするけしん
 志すけしんありのまのこも大事にせられしけしん
 一 物扱してちちのちとさるん又た筆はさんとするけしん
 一 物扱してちちのちとさるん又た筆はさんとするけしん
 一 物扱してちちのちとさるん又た筆はさんとするけしん
 一 物扱してちちのちとさるん又た筆はさんとするけしん

一 物扱してちちのちとさるん又た筆はさんとするけしん
 一 物扱してちちのちとさるん又た筆はさんとするけしん
 一 物扱してちちのちとさるん又た筆はさんとするけしん
 一 物扱してちちのちとさるん又た筆はさんとするけしん
 一 物扱してちちのちとさるん又た筆はさんとするけしん
 一 物扱してちちのちとさるん又た筆はさんとするけしん
 一 物扱してちちのちとさるん又た筆はさんとするけしん
 一 物扱してちちのちとさるん又た筆はさんとするけしん
 一 物扱してちちのちとさるん又た筆はさんとするけしん
 一 物扱してちちのちとさるん又た筆はさんとするけしん
 一 物扱してちちのちとさるん又た筆はさんとするけしん

一 物扱してちちのちとさるん又た筆はさんとするけしん
 一 物扱してちちのちとさるん又た筆はさんとするけしん
 一 物扱してちちのちとさるん又た筆はさんとするけしん
 一 物扱してちちのちとさるん又た筆はさんとするけしん
 一 物扱してちちのちとさるん又た筆はさんとするけしん
 一 物扱してちちのちとさるん又た筆はさんとするけしん
 一 物扱してちちのちとさるん又た筆はさんとするけしん
 一 物扱してちちのちとさるん又た筆はさんとするけしん
 一 物扱してちちのちとさるん又た筆はさんとするけしん
 一 物扱してちちのちとさるん又た筆はさんとするけしん
 一 物扱してちちのちとさるん又た筆はさんとするけしん

戊午月ホカ堂書富貴書贈今井氏新